

「JENESYS2019」中国社会科学院青年研究者代表団第2陣 参加者の感想（抜粋）

○日本の社会では、高齢者がますます「主役」になりつつある今日、政府・企業・団体・機関・個人などがそれぞれ相応の対応や措置を講じている。政府は、大量のデータを基に合理的な未来の発展の趨勢を予測し、正確な表やグラフを作成して、政策設計の参考としている。このように、高齢化社会への対応・政策はデータに依拠し、政府の主導で人々のニーズを十分に考慮し、特に介護保険制度は高齢者の生活保障、低所得者層の保険料減免に寄与しており、低所得者層への配慮を体現していることが見てとれる。団体や機関では、積極的に介護ロボットやペットロボットなどの使用・研究開発を進め、介護職員の仕事を補助している。高齢者への心身の癒し、介護職員の作業負担の軽減、高齢者の精神的ニーズにも考慮していて、経営者は細部まで配慮している。個人では、一人一人が高齢化社会への対応に努力し、シルバー人材センターの会員や民宿経営の家庭など、誰もが出来るだけ仕事を続け、生活レベルを高めている。子供達も分業・協力し、時間を作って年老いた両親の世話をしている。

日本の高齢化社会に対する政策の考え方や具体的な措置など、何れも同様の問題に直面している中国への参考となる。例えば、中国の国情に合った介護保険制度の策定や、特別養護老人ホームのデイケア施設での介護補助ロボットの幅広い使用、高齢者の精神的ニーズに対する対応などだ。

日本人の礼儀作法は、人と人の関係にある程度緩和させ、善意を伝え、尊重を体現できている。中国は礼節の国だが、今はその継承と生活における運用をあまり重視していないようだ。日本に習い、もっと礼儀の大切さを認識し、生活において実践することができるだろう。

○高齢化が日本の経済と社会発展に与える影響は大変大きい。高齢化が最も深刻な秋田県では、総人口が既に大幅に減少しており、このままだと2100年には僅か20~30万人となり、人口がゼロになることもありうる。全体的に日本の総人口も減少傾向にある。少子化対策が功を奏さず、高齢者人口が増加の一途を辿れば、高齢化がより深刻になり、日本の未来は非常に暗いものとなるだろう。

日本人の決まりを守り、人に迷惑をかけないという国民的性格は中国人が参考にすべきで、自覚・清潔さ・正義正しさも中国人が学ぶに値する。

経済発展と都市化や工業化の進展に伴い、日本の家庭における、子供が年老いた両親の老後の世話をし、子供を助けるために年老いた両親が孫の面倒をみるという良い伝統がすっかり変貌している。家庭の少子高齢化への対応力は大幅に弱まり、社会と政府の高齢化課題への対応の圧力と難度が高まっている。中国の家庭でも老後の世話をする能力が低下傾向にあるが、全体的に日本ほどではない。晩婚、未婚、高齢出産、子どもを持たない、老人の一人暮らしなどの問題は、今後も中日直面する長期的社会問題であり、少子高齢化は両国が共に直面する課題だ。

○日本の医療と高齢者ケアに対するサービス意識や治療後の養護分野は、中国よりかなり進んでいるが、中国では新しい技術や設備の先進機能と効果を強調している。正に、この精密化管理やサービスの運用の下で、日本は平均的な高齢者へのケアや医療条件により、世界各国からの患者へ高品質でバランスのとれた高齢者ケアや医療サービスの提供が可能なのだ。例えば東京高

輪病院では、高齢者医療施設として毎年数千人の中国人旅行客の健診を受け入れ、その患者一人一人に対する細やかなサービスと配慮は、中国が学び、対応するに値する。

また、高齢者ケア分野では、日本は高齢者の人口比率が高いため、認知症患者の入院治療が多くなり、多くの高齢者が入院治療を受けている。そのため、日本の老人ホームは地域社会と密接につながり、地域と高齢者に奉仕している。一方、中国の老人ホームは家庭の補助をする傾向にあり、まだ活動できて生活能力がある高齢者には老後のケアのニーズがある。両国は高齢者ケアの問題では国情が異なり、発展の傾向もやや異なっているが、多くの点で互いに参考にすべきだ。

○今回の視察は、主に日本の高齢化と少子化の現状に関するもので、中でも厚生労働省の講義では、日本社会の高齢化の基本データ、発展傾向、低所得高齢者への補助政策、及び認知症介護措置について全面的に理解することができた。それを基に、一橋大学経済学部の講義と合わせ、コスト効果について、特に税收政策の角度から高齢化が日本に与える多重の影響を理解した。その後、東京高輪病院の視察でも、秋田県庁と秋田市シルバー人材センター訪問でも、日本の高齢化対策の運用方法のステップ、更にはサービス理念や利用者のフィードバックまで、大変直観的に認知できた。今回のテーマを考察し、以下の三点で大きな収穫があった。

第一に、政策理念、制度の制定から市場と社会サービス部門の参与・執行の順序に基づき、浅い所から深い所へ、表面から内面へと、日本の高齢者産業と介護業務の全貌を理解できた。それと同時に、アメリカの社会文化、人口の状況、政策の策定とを横断的に比較し、中国の現在の高齢者生存状況とも合わせて、グローバルに、普遍的な問題の角度から、中国の高齢化政策の更なる開拓及び実行の方向性を整理することができた。

第二に、研究的視野が広がり、「高齢化状況の中国と西洋との比較」について注目し、今後は社会文化、法律などの角度から更に高齢化問題を理解し考えてみようとした。

第三に、ホームステイ先で日本の一般市民の生活のリズムやスタイル、伝統的風習を感じ、彼らの情熱や真面目さ、細やかさは、まるで我が家にいるかのような感じがし、大変感激した。私はこの友情を国に持ち帰って周りの人に伝え、日本を理解してもらい、日本に遊びに来て、日本文化に触れるよう勧める。